

令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

京都府		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
立命館小学校（外 校）	学校法人立命館	私立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
立命館小学校	立命館小学校 2020 年度学校 目標年度末報告シート	http://www.ritsumeikan-trust.jp/file.jsp?id=501833&f=.pdf

※結果公表に関する情報について、ウェブ上で公開している場合は公開しているウェブページの URL、ファイル名等を記入すること。ウェブ以外で公開している場合は、公開している情報を閲覧できる場所・方法を適宜記入すること。

※必要に応じて行を追加すること。

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

- 1) 第1学年から第6学年において、教科「英語」をおくこと。
- 2) 第1学年から第6学年において、教科「情報」をおくこと。

その上で、第3学年から第6学年の「総合的学習の時間」の時間数を減じること。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

第一に、我が国が、21世紀半ば以降も国力を維持し、国際社会において重要な役割を担っていくためには、コミュニケーション・ツールとしての英語運用能力を飛躍的に伸長させること、そのために初等教育段階から英語に慣れ親しんでいくことが必要である。この観点にそって「外国語活動」は導入されてきたが、新指導要領では、教科「英語」が第5学年、第6学年に設置された。

開校16年目を迎えた本校では、開校時から「真の国際人を育てる教育」を教育の一つの柱として掲げ、国際社会で通用する人格、行動規範、言語能力を備え、世界の仲間とともによりよい社会の創造を目指す子どもを育てる学校としての教育活動を展開してきた。第1学年から英語に親しみ、段階的に英語入門教育を実施し、高学年では海外研修を含む本格的な活動を通して、基礎的英語コミュニケーション能力を習得させる指導を行っている。

また、立命館アジア太平洋大学の国際学生との交流や海外協力校との交流プログラム

も実施し、その成果として、様々な場面で英語を用いて自己表現し、調査・研究したことを英語で発表できる児童が育っている。

一方、本校児童の多くが進学する立命館中学校・高等学校での追跡調査によって、リスニング力に比べてリーディングやライティング力に課題があることも分かってきた。このことは、経験的に学んだ英語を成長段階に合わせて論理的に理解し、正しい読み書きへと導くことで、読み・書き・聞き・話すことができるツールとしての英語力に到達できるものと考えられる。

そこで、外国語活動を全学年に教科「英語」として実施し、経験的理解から論理的理解へと発達段階に応じた指導をすることを通じて、更に、全国で実施される小学校での教科「英語」学習への示唆となるよう研究や実践を進めていきたい。

第二に、英語力と並んでこれからの社会を生きていく力の一つに、「情報活用能力」が挙げられる。これは単に、インターネットなどを通じて情報を検索するだけでなく、必要に応じて加工したり、仮説を立てて分析したりする能力を含んでおり、その過程においてはプログラミングを理解することも可能である。

本校では、ロボットがプログラムで動く仕組みを学習し、或いは、情報を加工・整理して効果的に発表する力をタイピング学習も含め養ってきた。こうした実践をもとに、様々な学習にも応用できるICT機器の活用などを分離・独立させて、様々な能動的学習を支える基礎教科として「情報」を設置する。

そして、教科「情報」においては、単にスキルだけではなく、情報を活用したり、発信したりすることの利便性、また、モラルについても、学齢の早い段階から指導していく。

(3) 特例の適用開始日

平成29(2017)年4月1日

令和2(2020)年4月1日 変更

(4) 取組の期間

令和5(2023)年3月31日まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・ 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択

した場合は、必ず記載する。

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

特になし

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

第1学年からの教科「英語」導入においては、「真の国際人の育成」として、英語力の向上は、第6学年段階で中学3年生レベルの実力を持つほどになり、また、英語力向上に向かう姿勢は立命館アジア太平洋大学の国際学生との交流や第4学年からの海外交流への積極的な参加にも繋がっている。また本校を卒業した児童は、中学校や高等学校においても、国際教育の場面では大変活躍できている。課題は、更なる英語力や国際理解力を高めるための指導を考えていくことである。

第1学年からの教科「情報」については、第1学年から第4学年までのロボティクス中心の学びと第5学年から第6学年のICT機器活用中心の学びで、系統的なカリキュラムが作られるようになった。同時に、プログラミング的思考力育成も継続して取り組んでいくことができた。今後は、個々の情報処理能力を更に高め、より積極的な機器の活用をねらいに、学習への効果的効率的な一つの道具となるよう指導を考えていきたい。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

法令に従いながら、その目標達成に努めることを大前提に、教科「英語」においては、国際人として活躍できる人材育成を目指し、そのツールとなる外国語（英語）の運用能力の基礎を学習した児童を育てる。教科「情報」においては、プログラミングや情報処理のスキルに長けた児童の育成を図り、更に、正しく情報化社会と向き合える児童の育成を目指す。

また、学習指導要領に定める内容に基づいて教育課程を編成し、小学校教育の目標達成に努め、教科「英語」においては、調査・研究をさせたり、発表や質疑・討論を英語で行わせたりすることで、「総合的な学習の時間」の目標である自ら課題を見つけ、学び、考え、判断する資質の育成に努める。教科「情報」においても、課題に対して、研究・発表を行う学習単元をおくことで、「総合的な学習の時間」の教育目標を達成できるように努める。

5. 課題の改善のための取組の方向性

方向性として修正することはないが、まだまだ発展途上の状況にあるので、4に示すような課題を踏まえて、更に、英語によるインプットの指導を深め、アウトプットの場면을計画的に導入し学んだ英語がしっかりと使える英語として身に付けさせ、コミュニケーション力と国際理解力向上を目指していく。情報においては、自ら考え判断する力を大切にしながら、学習ツールとしての機器活用力を身に付けさせていくようにする。